

社会科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	社会的事象を公正に判断し、社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造	
日時	平成28年 7月 8日(金)	
会場	北広島市中央公民館	
講師	鎌田 和宏氏(帝京大学教授)	
参加者	34名	
研修会 の 様子		<p>選挙法改正により、18歳の人々にも選挙権が与えられた今、近い将来有権者になる小学校の子どもたちが、投票行動に向かうこと、つまり社会に関心をもつ子どもたちに育てることが、社会科の大きな役割であるというお話から、講演はスタートした。</p>
		<p>事前に私たちの部会の研究主題や内容を連絡させていただいたおかげで、鎌田先生は研究主題に沿ったお話を、自らの実践や、執筆に携わった教科書の具体的な事例を関連づけて、わかりやすく説明してくださいました。</p>
		<p>社会科の重点として、大きく4点に分けて説明されていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①社会に関心をもたせるには ②社会的事象を多面的にとらえ、公正に判断するとは ③事実をもとに、意思決定できることの大切さ ④社会に参画するとは
		<ol style="list-style-type: none"> ①社会に関心を持たせるには 最初は「人ごと」であることが、活動・追究していくことで「自分ごと」になっていくことをねらった学習問題を設定したい。 ②多面的にとらえ、公正に判断するとは 多面的というよりも、子どもたちの直接体験により、より多角的(多様な立場に立って)に社会的事象をとらえることを重視したい。
		<ol style="list-style-type: none"> ③事実をもとに、意思決定できることの大切さ 自分が判断したくなる、判断しないわけにはいかない、より子どもたちに切実な学習問題が設定されることが望ましい。 ④社会に参画するとは 学校は「小さな社会」とも言える。学級会などで、子どもたちの学校生活に身近にある問題を話し合うなどの活動も重視していく必要があるのではないか。